

水 土 里 レ ポ ー ト

投稿月日	令和 4 年 12 月 15 日(木)
タイトル	田んぼの学校～狩込どじょっこ会・収穫祭～
水土里レポーター名	水土里ネット那須野ヶ原 星野 恵美子

令和4年11月13日(日)、栃木県那須塩原市四区町地内において、狩込どじょっこ会による「田んぼの学校～収穫祭～」が開催されました。

曇り空で少し肌寒い気温でしたが、約80名の参加者が集まり6月に植えたサツマイモの収穫と10月に稲刈りをした「もち米」を使った「もちつき」をしました。

待ちに待った収穫祭に子供たちは大はしゃぎです。

はじめに、サツマイモの収穫をしました。2列ある畝に分かれて収穫開始です。土を掘り始めると顔くらい大きなイモや手のひらサイズの小さなイモなど大小様々なサツマイモが出てきました。美味しく育っているためか、ネズミやモグラなどに食べられてしまい半分くらい無くなっているものたくさんありました。

サツマイモの収穫の後は、もちつきの準備ができるまでちょっとひと休みです。

今回は収穫祭ということもあり、農家の方が自分で釣って保存してくれていた鮎の塩焼きや事前に収穫しておいたサツマイモを使った焼き芋なども振る舞われました。

鮎の塩焼きは、頭から尻尾まで残さず食べられ美味しいものでした。しかし、小学生にはまだ早かったのか一口かじって捨てられてしまっている子供たちもあり、苦笑いの瞬間です。



土の中から顔を出したサツマイモ

それを見た農家の方は、「田んぼの学校を通じて、もっとSDGsについての教育もしないといけないなあ。」と、呟いていました。

ひと休みの後は、「もちつき」の始まりです。杵で搗く人と臼の中のもちを返す人、二人の息を合わせた作業です。最後の仕上げは、子供たちも参加しました。少し小さめの杵を使って一生懸命搗いていました。搗きたてのモチは、餡子やきな粉をまぶして振る舞われました。

収穫したサツマイモは、参加した家族にお土産として配られていました。



収穫したサツマイモと集合写真

水土里ネット那須野ヶ原では、田んぼの学校の活動をとおして米作りの大変さなどを学んでもらうほか、SDGsなどについても参加者へ伝えて行ければと思います。



子供も一緒にもちつき